

# 昭和55年度 和歌山県文化功労賞

しま むら やす ひこ  
島 村 安 彦

住 所：和歌山県和歌山市  
出 身 地：和歌山県和歌山市  
生 年：大正6年

賞をうけている。

## ◎業績及び経歴

慶応義塾大学を卒業後、酒造の家業に従事しているが、幼少の頃より父島村逢紅(全日本写真連盟関西本部委員及び審査員)の薫陶を受けられ、小学校5年生で全日本写真連盟和歌山県本部撮影会で初入選した。

慶応義塾大学在学中は、日本写真会創設者、福原信三、路草兄弟各氏に師事し、1940年(昭和15年)若冠22歳で全世界ローライコンテスト(ドイツ)において第1席に入賞、戦後もバルセロナ(スペイン)国際写真サロンをはじめ各国の写真サロンに多数入賞した。

国内では、二科会写真の部に8回入選、またアサヒカメラ月例カラーの部で連続年度賞を受けているほか日本写真会展で連続特選に入賞、昭和30年同人に推挙された。

そのほか全日本写真連盟関係の写真展には多数入賞(特選)を果たされ、戦後和歌山の写真界復興に尽力されている。

これらのことにより昭和51年には、全日本写真連盟創立50周年に功労賞を受賞された。

また審査員としては、県展、和歌山市展の写真部門創設以来30回におよぶほか、和歌山県観光写真コンテスト、和歌山県勤労者美術展、全日本写真連盟、日本写真会などがある。

現在、和歌山県美術家協会副会長、全日本写真連盟関西本部委員、木国写友会会長などの要職にある。

木国写友会は、写真を通じ本県文化の振興に貢献していることで、昭和49年に和歌山県文化奨励